

## 第6回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日時 令和6年10月9日(水)12時58分～15時57分

場所 湖北幼稚園、高時小学校、一麦保育園

出席者 (委員) 水本座長、大橋副座長、西川委員、水谷委員、福永委員、  
辰野委員、文室委員

(事務局) 為永管理監、稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員

欠席者 西田委員、塚田委員、森委員、中川委員、喜田委員

### ◇湖北幼稚園視察 (12時58分～13時43分)

---

#### 1. 自己紹介

#### 2. 園内視察

#### 3. 幼稚園から資料に基づいて説明

- ・旧湖北町は、目に見えて、子どもの数が減っている。
- ・園児は真面目で、おとなしい。トラブルも少なく他者意見に同調してしまう。
- ・協働する場面が少なく、大きな集団での自己発揮につながりにくい。
- ・8月31日園小連携関係校園が集まり会議を開催。  
→ 4園の交流、小学校との交流等企画中。
- ・保護者は真面目で伝えたことは実践してくださる。(→園より:体操服廃止、卒園式の服装変更等)。
- ・社会の変化、子育てスタイルの変化を感じる。

#### 4. 意見交換

- ・管内4園の保育料は違うのか。  
→ 合併時は5園。公立幼稚園2園を1園にした。国の基準単価であるため、どの園でも同じ保育料。3歳以上は無償。第2子半額、第3子無料。
- ・「子育てに不安を持つ保護者が増えている」とは具体的にどのような内容か。子どもが減っていることが原因なのか。  
→ 排泄面や食事内容等日常なこと・家庭でのお子さんと過ごし方等について、園と家庭が連携していくことで少しずつ互いが喜び合える状況も見られる。  
少人数の園だからこそ、保護者の気になる要因も増えている傾向ではないかと感じる。相談に乗ってくれる人、助けてくれる人がいても、自分で抱え込んでしまう人もいるのではないか。
- ・保護者に対する支援で必要なことは何か。

- 園職員で対応もしているが、それ以外にも悩みを感じる方は、子育て支援相談員を紹介し、必要な時期・状況に応じて、つないでいる。
- ・子どもが減っていて集団遊びが難しいとのことだが、交流によりカバーできる見通しはあるのか。
  - 完全なるカバーは難しいと思っている。他園での保育経験から知らない子どもの集団で、自分の思いを伝えられない姿を見ている。就学前にいろいろな子どもと交わって遊び『楽しい』と感じる体験・機会が必要だと痛感している。意図的に場を設け一緒に遊ぶ・交流する中、“楽しく遊んだ子”と仲間になる子(顔見知り)を増やしておくことは重要だと思っている。
- ・施設のメンテナンスは、どのようにしているのか。
  - ワックスがけは職員で実施。掃除、葉刈はシルバー人材センターを利用。除草作業に保護者協力をいただくが、酷暑・子育て中の方も多く時間的な限界もある。シルバー人材センターへの依頼や通園バス運転手に対応した。
- ・少人数のなかでの人間関係の固定化や広がりやすさはあるのか。
  - 小学校に入り状況に馴染んでくれば違うのかもしれないが、多人数集団の中で自己表出することができない子もあり、新たな集団での生活(学校生活)に馴染むには一定の時間を要する。現状少人数で2校へ進学する(性別のバランスも有)。4園での交流をやらないと仲間つくりのきっかけ(顔見知り)もできないと案じている。

#### ◇高時小学校視察 (14時06分～14時51分)

---

1. 自己紹介
2. 校内視察
3. 学校から資料に基づいて説明
  - ・小規模校のよいところは異年齢交流や地域とのかかわりが多いところ。デメリットは人間関係やお互いの評価が固定化してしまうところ。修学旅行も複数校で実施。行事は他校と合同でないとできにくい。児童1人あたりの負担が高額になる。
  - ・複式学級の先生は1人。先生が他学年を指導している時は、待っている時間や自分で勉強する時間になってしまう。先生も2学年分の仕事をしなければならない。
  - ・1,2年は国語と算数以外は合同で授業を実施(国語、算数は基礎的な学力をつけるため単独で実施)。3,4年生は、国算社理英は単独実施。5,6年生は、図工、音楽、家庭を合同実施している。
  - ・保護者の学校評価は、読書以外については、どの項目も80%以上の肯定評価。保護者の記述にも、授業に対する不満の声はない。
  - ・ほとんどの児童が木之本中学校へ進学。河瀬中学校に行く子どもたまに在る。

- ・地域の皆さんに、とても大切にしてもらっている。読み聞かせ、学童、清掃活動等に協力してもらっている。
- ・教育改革推進室が今年 7 月に統合に関するアンケートを実施。賛成 55%、反対 45%の結果だった。

#### 4. 意見交換

- ・統合してほしい理由、してほしくない理由は何か。
  - 少人数でのきめ細やかな指導、総合的な学習(オオサンショウウオ、お茶、古墳)への評価、移住してきた人の気持ちも考えてほしいとの声がある。地域の方もこの学校のことを、とても大切にしている。
  - 反対している人の中にも、人数が少ないので、仕方がないと思っている人もいる。
- ・異動で来た先生が、少人数クラスへの適応できる工夫は何かあるのか。
  - 少人数でも、大きく授業のやり方は変わらない。できる限り、子どもたちから発言させるスタイルの授業を校内研究でもやっている。学習リーダーを立てて、進めていく方法にチャレンジしてもらっている。
- ・保護者の方の複式学級への受け止めはどうか。
  - 十分にご存じない。国語等の教科が複式学級になった時、どうなるかという説明まではしていないので、イメージもない。説明する機会が必要だと思っている。
- ・令和 8 年度が大きなターニングポイントとなる。先生方の統合の思いは。
  - 先生方はそこまで考えていない
- ・担任の 6 人のうち 1 人は特別支援。令和 8 年度の職員数は極端に減る。担任 3 人と特別支援と加配。実際そうなった時に保護者はどう思うのか。教務主任もいない。
  - 複式学級が実際にどうなのか、先生の数がどうなるのか等保護者には伝えていない。
- ・授業参観はどうしているのか。
  - 2,3 年生は市費の先生に来てもらって、各学年単独に授業を実施している。
- ・令和元年度でも児童数 10 人以下。ここ数年ずっとこの状況。保護者アンケートで、この少ない人数、状況がおかしいと思う意見や児童を思っている意見はないのか。
  - 平成 26 年度あたりから、複式学級がある学校に、統合を打診している。子どもの数はじわじわと減っているが、保護者もそのような環境で育った人も多い。去年段階で保護者と意見交換した。イメージ的なことは伝えているが、実態としては保護者もつかんでいない。

◇一麦保育園視察（15 時 19 分～15 時 57 分）

---

## 1. 自己紹介

## 2. 保育園から資料に基づいて説明

- ・民営化の話が進んでいたが、法人が辞退したことにより公立で運営している。
- ・40世帯のうち10世帯は小学校区外から来ている。
- ・祖父母の助けを借りながら、子育てを楽しんでいる保護者が比較的多い。
- ・園の先生全員で見てもらっている安心感があるとの保護者からの評価。
- ・朝日小学校と生活科を通じて交流あり。他にも湖北幼稚園と交流もしている。同年齢児との交流を増やしていきたい。保育参観等職員間の交流も実施している。
- ・地域のボランティアの方が多い。芋ほりや野菜苗、花苗の提供やアドバイスもある。
- ・小規模園の良さを生かし、保育の充実につなげていきたい。

## 3. 園内視察

## 4. 意見交換

- ・シフトを組んでいるとのことだが、職員の出勤時間は何時か。
  - 子どもがいる時間は7時30分～18時15分。遅出は9時45分からと10時30分から。
- ・シフト制によるメリット、デメリットは何か。
  - 職員の勤務条件の中で、協力体制をとっている。どの職員も、どの子どもにもどのクラスにも関わられるように日々声をかけている。連携は密にしている。
- ・小規模ながら地域の人に選ばれ続けている。そのまま公立存続となった時の地域の人の反応はどうだったのか。
  - 保護者それぞれの思いは聞いているが、地域の声とまでは聞いていない。公立民営問わず、子どもをしっかりみてほしいとの思いが多い。
- ・アットホームでひとりひとりに目が届いている雰囲気がある。友だち関係の固定化等少人数が故の難しさもあると思うが、そのあたりの兼ね合いはどうとらえているか。
  - 友だちが少ない為、どうしても刺激が少ない。その分他園との交流を実施している。子どもたちは、言葉で伝えなくても、自分の気持ちをわかってもらえるとの思いを持っている。
    - 職員保育力、指導力も問われるが、職員も少なく多様な保育者から学ぶ機会が少ないので、お互いのクラス運営を見合って、保育の質を高めるなど、自己研鑽がより必要だと思っている。
- ・人間関係が固定化しないようにする指導力、ポイントがあれば教えてほしい。
  - 職員みんなで子どもを見る。子どもの声に耳を傾ける。あれ？と思ったときは、職員間で連携していく。芽がありそうときは、早いうちに対応することが必要だと思っている。職員も少人数なので、連携もできる。
- ・少人数を乗り越える指導力がいろいろとあり、蓄積されている。他園とも共有すれば、質も向上するのではないか。

- ・保護者の悩みの傾向があれば教えてほしい。園の悩みは何か。
- 40 世帯から園児が来ている。うち 20 世帯は祖父母と同居。子育てを保護者だけが悩み背負うことなく、手助けを受けられる環境がある。
- 一方、悩んでいる保護者は関係性がないと悩みは打ち明けられない。小規模園だからこそ、寄り添える部分は大きい。